



Lifeを語るアカデミアの冒険
社会の営みや人間、科学について、
お茶とお菓子を楽しみながら
リラックスして学びあう知的カフェ

- ① 「ハーフ」言説はどのように生まれたか
—日本人と外国人の境界をめぐる戦後社会史—
- ② 1つの島に7種のサル！
スラウェシ島で多様化したマカクの仲間

→裏面に参照

現在、地球規模で進むグローバル化や環境悪化がきっかけとなって、多くの国々で生物多様性や文化多様性の保全が叫ばれています。本シリーズ<多様性を考える>では、我々人類が世代を越えて享受してきた自然・生物の豊かさは、どのように生み出されるのか、また、日本社会における多様性はどのように可視化されにくいのかなど、進化生物学や国際社会学の最新の研究成果を元に、「種」や「人種」の生成・編成を考えていきます。

「ハーフ」言説はどのように生まれたか —日本人と外国人の境界をめぐる戦後社会史—



2020年2月9日(日)

13:30~15:30 (受付 13:00~)

しもじ よしたか
下地ローレンス吉孝さん

大阪市立大学都市文化研究センター特別研究員/国土館大学非常勤講師

- ◆会場 湘南国際村センター1 階展示室
(神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39)
- ◆定員 40名(先着順) ◆参加費 無料

戦後、GHQの占領終了に伴い社会問題として注目を集めた「混血児」は、高度成長期にはアメリカ消費文化への羨望の中で、いつしか「ハーフ」と呼ばれるようになりました。本講演では、現代日本においても流通する「ハーフ」をめぐる言説がどのように生まれたかについて、神奈川県内の事例を絡めながら紹介します。さらに「ハーフ」ひとり一人のライフストーリーから、「多様」なルーツを持つ人たちが、「多様」なままで生きられるためにどうすればよいかについて、参加者のみなさまとともに考えていきます。

プロフィール：1987年生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。専門は社会学・国際社会学。現在、国土館大学などで非常勤講師。著書『「混血」と「日本人」—ハーフ・ダブル・ミックスの社会史』（青土社、2018年）。「ハーフ」や海外ルーツの人々の情報プロジェクト「HAFU TALK」(URL <https://www.hafutalk.com/>)を共同運営。

申込方法：メールまたはFAXに①参加希望の講演会名②お名前③住所(市町村名まで)④メールアドレス(電話・FAX等もあれば)⑤ご所属⑥この講演で特に聞きたいこと(任意)⑦この催しをどこで知ったかをご記入の上、下記までお送りください。申込締切：2020年2月3日(月) 【申込先】E-mail: academia@kifjp.org FAX: 046-858-1210
お問い合わせ：(公財)かながわ国際交流財団(アカデミア担当) TEL: 046-855-1821 関連HP www.kifjp.org/ace/academia